

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん

汐入

第87号
平成20年
11月3日



資源回収車に乗って

助手席からの風景

「年末年始と日曜以外は回収に廻っています」

現在、荒川区内の資源回収は27社で再生資源（ビン・缶・古紙・発泡スチロール・トレイ・ペットボトル）の回収しています。そのうちの1社の服部商店の3代目服部さんの資源回収車（2トン車）に乗せていただきました。

午前8時、出発です。ちよつと緊張です。今回は2つの町会の10〜20m間隔にある集積所18カ所を古紙・缶・びん、午後に白色トレイの順番に廻ります。

「持ち去り防止のために待っていてくれるんです」

町会の役員さん2人の笑顔が、助手席から見えます。運転席から飛び降りると「ご苦勞様」「おはようございます」の笑顔の挨拶のやり取り中、いよいよ服部さんの活動開始です。その動きには無駄がなく、すばやく新聞と雑誌に分けて車に積み込み、次の集積所へ向かいます。（新聞と雑誌は抜き取りされる恐れがあるので先に回収します。）

「順路を考えて廻っています」

車道から路地へ、ぎりぎり車一台が入れる場所では後続車を気にしながら積み込みます。1カ所の滞在時間は長くて30秒位です。助手席から飛び降り参加しましたが、古紙袋に入った新聞は重くて荷台に乗せるには気合を入れてあげないと落とすしてしまいます。雑誌もきちんと結わえてないと持ったとたん崩れて散乱してしまふことも。車の入れない集積所は運転席の上

ある折り畳んだ台車をすばやく降ろし、台車で走りながら運びます。行程の半分位で荷台は一杯になりました。そこで荷台の周りにベニヤ板を立ててさらに積み込みます。最後は古紙が飛ばないようにゴムのロープを掛けます。この作業は1時間弱で終了し、隅田川近くにある古紙問屋（株）シムラに古紙を降ろします。ここは、天井が高く広いのですが、冷暖房はなく夏は蒸し風呂の暑さ、冬は耳がちぎれそうな寒さに作業は厳しいと（株）シムラの社長の志村さんは仰っていました。

「整頓して積むことが効率がいいんです」

台貫（積載車ごと量り、積荷を降ろした差を求め）で量った後は、新聞を先に降ろし次に雑誌を降ろしました。一息つく間もなく今度は同じルートで缶の回収に出発です。

「夏場は缶の汁が残って臭くて」

荷台に缶が音を立てて回収箱から開けられ、アルミ缶の袋は荷台の奥に投げ込まれます。古紙に比べると軽いので少しは楽でしたが、呑み残しの匂いが荷台から臭ってきます。集荷後はリサイクル缶センターへ。同じく台貫に乗り、缶が上げた荷台からガラガラと音を立てて降ろされていきます。荷台をホースで手早く洗い流した後はダンボールの回収へ行きます。ダンボールは、新聞紙や雑誌に比べて重さはありませんが、形がさまざままで運び辛いです。また、かさ張る為、積み方には工夫が必要です。

服部さんは、ベニヤ板で囲った上まで積み上げ大きなダンボールを上にして古紙同様に荷崩れしないようにしっかりとロープで荷台の端から端までを何ヶ所か掛けます。そして、また（株）シムラへ。先程と違い、回収車が順番待ちをしてました。新聞紙と雑誌の山がうず高く小山をなし、ブルトウザーのような機器で倉庫の奥へ運ばれます。雑誌

類の中には全集や単行本も有り、古本屋の棚に並ぶ本も紛れていました。

「ピンは結構割れないんです」

最後のビン回収は一升瓶など別に分けて積み込み、残りは箱ごと荷台に積み込みます。ピンは重くて箱は持ち上げるのは大変でした。回収後は、リサイクルビンセンターへ降ろしました。古紙・缶・ダンボール・ビンと4回転廻ったら12時過ぎていました。午後からトレイの回収に廻ると服部さんは仰っていました。さすがにプロと関心しました。私は足・腕・腰に疲れが来ましたがかなりの運動量です。この業界にメタボな人はいないと言われるのも納得です。



「大丈夫ですよ」

服部さんは回収が終わった古紙をあわてて持ってきた人にも、優しい笑顔で応対されていました。感謝されて感謝する信頼感が笑顔になるのでしょう。町会の方や管理人さんとの挨拶は、朝から心地良いものでした。

「雪の日は坂が登れなくて。台風は雨だけでなく風で紙が飛ばないように。大変だけど、待っていてくれる人がいるから」

気候・天候の変化を肌で感じ、

夏はTシャツが汗で白くなり、冬はトイレの問題が頭を悩ませます。過酷な仕事です。循環社会の基礎

は先ず回収からです。日々、回収してくれる人達がいなくなったら、どうでしょうか。快適な生活は送れません。支えあう社会です。まずは、缶は軽くすすぎ、新聞はしっかりと結わえて出しませんか。

感謝の気持ちを込めて、ささやかなご協力を。



荒川区リサイクル事業協同組合
荒川区東日暮里1-39-12高橋ビル1F
TEL 5850-4561
FAX 5850-4570